

九州歯科大学 第六六回卒業式

式辞

本日、ここに、小川洋福岡県知事をはじめ、来賓各位ならびに保護者の皆様のご出席を賜り、第六六回卒業式を挙行できますことは、卒業生はもとより九州歯科大学教職員にとっても大きな喜びであります。ご多用中にもかかわらず、ご臨席を賜りました来賓の方々に厚く御礼を申し上げます。

また、本学に入学以来、成長を見守ってこられた保護者の皆様方におかれましては、その喜びは一方ならぬものと拝察申し上げます。教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

さて、歯学科六六期生および口腔保健学科五期生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日までの思いがつぶさに蘇り、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、歯科医療の世界で、明日から君たちが澁刺として活躍する姿を思い浮かべ、社会に貢献する歯学士および口腔保健学士に育て上げたという安堵感とともに、本学で培っ

たプロフェッショナルリズムの精神をもって、これからの厳しい実社会での成功を切に願っています。

九州歯科大学は、二〇一五年の十月に、あらたに九州歯科大学憲章を制定し、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、実践的歯科医療人の育成を目指して、第二次教育改編を開始しました。この九州歯科大学憲章の前文には、「平成二六年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」という文言が綴られています。

本学で学修してきた皆さんは、大学を卒業後、あらたな組織の一員として生きていくこととなりますが、いかなる状況にあっても、本学での教えを基盤にして、常に高い志と向上心を忘れることなく、生涯研修に励んでください。そして、様々な局面で自らに課題を課し、培ってきた知識と技術ならびに高い倫理観をもって行動する社会人になることを切に願っています。

古き良き伝統を有する九州歯科大学は、設置団体の福岡県の温かい支援のもとで、これまで通り、歯科医療界を牽引する実践的歯科医療人を育成していくことに変わりは

ありません。二〇一七年、九州歯科大学は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の大学機関別認証評価を受け、全ての大学評価基準を満たしていると評価されました。あわせて、大学機関別選択評価のうち選択評価項目 B「地域貢献活動の評価」については、「目的の達成状況が極めて良好である」と評価されました。我々としては、二〇一二年からの六年間にわたる第二期中期計画期間中の大学機関別評価で、このように高く評価されたことを今後の励みとして、これからも全教職員および学生が一体となって、不断の改革を進めていきます。とくに、九州歯科大学が掲げる Global and Local Academic Collaboration を忘れることなく、卒業生諸君もこのような環境のもとで修学したということを心に刻み、歯科医療人としてグローバルな道を歩むことを強く望みます。

近年、厚生労働省は、二〇二五年を目途に、「地域包括ケアシステム」の構築を唱えています。そのなかで、我々歯科医療人に対して、多職種連携を通じて、地域住民の健康増進に貢献することが強く求められています。九州歯科大学は、このような歯科医療を取り巻く環境の変化をいち早くとらえ、歯学教育を改編してきました。そのようななか、今年度の卒業生は、臨床実習のなかで、附属病院以外での実習を通じて、歯科医師と歯科衛生士が、デンタルチ

ームとして口腔保健活動を行うことの重要性を実感した
と思います。このような意識を共有することにより、これ
から展開される医科歯科連携医療において、メディカルチ
ームと一体となって、歯科医療人として、多職種連携を展
開することができる優秀な医療人となることを強く望み
ます。

九州歯科大学は、二〇一六年十月から、歯科医療人の知
識と技術、歯科医療に向かう意識を高めていくという視点
に立って、口腔保健・健康長寿推進センター（DEMCOP）を
開所し、リカレント教育を展開しています。卒業生諸君は、
DEMCOP を活用して、より良質な医療を提供することが出
来る人材となってください。そして、常に生涯研修を忘れ
ることなく、今後、大学に眼差しを向けて、根拠に基づく
地域医療（Evidence-based dentistry）を展開してくださ
い。

むすびに、小説家司馬遼太郎氏が、「のぼってゆく坂の
上の青い天にもし一朶の白い雲が輝いているとすれば、そ
れのみを見つめて坂を登っていくであろう」で始まる名著
「坂の上の雲」で、見事に書き著した明治という国家観を
イメージして、卒業生諸君に、「雲外蒼天」の言葉を贈り
ます。この言葉を忘れることなく、将来、卒業生諸君が国
内外で広く活躍する医療人となることを切に願い、私から

の式辞と致します。

平成三十年三月十六日

九州歯科大学
学長 西原 達次